

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296300011		
法人名	株式会社 ブレインシステム		
事業所名	グループホーム 虹の森 (1階ユニット)		
所在地	周智郡森町森1588-5		
自己評価作成日	平成29年8月10日	評価結果市町村受理日	平成29年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.katgokensaku.mhlw.go.jp/zz/index.php?action_kounyu_detail_2016_022_kani=true&ligvsvocd=2296300011-
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中で、安全・安心に過ごして頂き、入居者様が出来る事を実践して頂き、達成感も味わって頂いている。たとえば、食事作りや洗濯物たたみ、掃除、壁画作り等行っている。食事、散歩、ドライブ等イベント等の計画を立て、季節を感じて頂いている。地域との交流は随時行っているが、保育園の慰問や中学生の福祉体験、高校生の実習を定期的に受け入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「訪れた人がまた来たい」と思う場所づくりを、との姿勢を開所当初から持ち続け、今でも継続できていることが自慢の事業所です。此処2年は庭の整備に力を入れ、草を刈り、石を除き、季節を感じる花や野菜を増やしており、清掃は全員協議で当番を決め「だれが」「どこを」が徹底され、内外ともに環境を整えています。散歩など戸外に出た際、以前の利用者家族から親しく声をかけてもらえるのはその成果だと、管理者は感じています。また現状に甘んじることなく、例えば水分チェック表を作り、コップを大きいものに変えて水分量を増やす取組みも定着し、外出行事には「できるだけ全員で」を実践できる底力をも持ち合わせています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの事務所と玄関前に掲示している。新入社員には、理念を書いた用紙をカードに入れ渡している。	以前はしていた唱和はなく、現在は理念や行動規範を記載したカードを携帯し、常に確認できるようにしています。セオリー通りに決めつけたり、指示したりするのではなく、常に「本人本位で」意思を尊重し、選択できる言葉を投げかけている場面を管理者は浸透と受け止めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内の行事のチラシを、地域の方々に配っている。	虹の森祭りは職員がポスティングして廻り、地域の中においても恒例行事として定着しており、敬老会には高校のボランティア部が惜しみなく協力くださいます。自治会長が在職中のため多忙で会話を持つ機会も少ないものの、民生委員がお話ボランティアに寄ってくれる日もあります。	虹の森祭りがいかに地域に慣れ親しんだ行事かということ写真やデータでまとめ、一度自治会に「ちらしを回覧板に挟むこと」を検討してもらい、親交が進むきっかけになることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園の慰問、中学生の福祉体験、高校生の実習を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域の方々に出席して頂き、社員・入居者・介護サービス等の実情を伝えている。質疑応答の時間を設け、お茶をしながら話し合う時間も保たれている。	町役場職員は出向いてくださるものの家族、職員が主なメンバーと成り、家族会に近い構成です。「本来の目的を果たせる集まりか」にはやや疑問が残りますが、それでも家族から過去の侵入殺傷事件に係る質問があったことをはじめ「家族要望」を確実に捉える機会となっています。	家族からは「土日で運営推進会議を開いてほしい」と提案があり、町では「検討してみる」と回答を得たところですので、是正に進むことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に数回、必要に応じて市町村担当者に実情をお伝えし、運営推進会議にも出席している。	行事案内や議事録、保険に関することもすべて森町には手渡しでおこなうことを旨としていて、月2、3回は窓口を訪問しています。介護相談員は年2回程度の訪問があり、書式の変更で現在は滞っていますが、これまでは報告も必ずありました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	していない。	日中施錠はなく、ゼロ宣言もおこなっています。声掛けについては細かなチェックをおこない、「指示」「お願い」はやってはいけないとして「選択してもらえるように」を大切に慣行しています。	声にボリュームがある職員がいました(利用者は気にしていない様子でした)。勉強会などで声の大きさについて一度振り返る機会があると、なお良いと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	報道等で話題になった時は、スタッフ間及び運営推進会議等で話し合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様が理解、納得されるよう時間を設けている。改定等の際は予め文書でお伝えし、場合によっては、より詳細に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議等でも出された意見を話し合っている。	「虹の森便り」を2ヶ月に1度、定期発行しています。利用者の暮らしぶりや心身の状態については事業所から都度家族に相談していますが、運営推進会議では「もっと職員と話したい」との要望が挙がったため、現在つくる機会を模索中です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議等で意見が出た時は随時行っている。	レクやおやつ、パット・食材発注など、職員は各々係を持ち其々の責任分野があることもあり、カンファレンスに近い形式のユニット会議では活発な意見交換があります。また内容が濃くなるよう、ユニット会議の前に「課題ノート」に書き込んでもらう工夫もおこなっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の全体会議・施設会議等で把握に努めている。必要に応じて面接を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員の研修は、年間計画を立て施設内研修を実施している。施設外研修は、社員船員を対象とし、随時参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、講演等にも参加し、交流を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を共有し実践出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などに、最近の様子をお伝えする時間を設け、何か要望はないか傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が1番目に何を望んでいるか見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に散歩、談話、レク、食事等に寄り添えるよう、家族のような関係づくりになれるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等の来設時、時間を共に共有できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の面会や馴染みの所へドライブ時行くようにしている。	家族、知人も訪れ、また此処に住んでからの馴染みの場としては、よく散歩する小國神社や金森神社があります。絵手紙の先生だった人は自室のほか共用空間も作品を貼り出して賑わいづくりに一役買、居室に個性的な洋服を吊るして自身のお洒落感を満足させている人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人でも多くの人に参加できるレクの計画を立てている。介護士が間に入り、談話ができる時間を設けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町内での買い物等で出会った時に挨拶する程度ですが、中には近況を離されるケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々話しを多くする事に努め、何を望んでいるかを見つけ出すように心掛けている。話しをすることが苦手な入居者様には、周囲からの聞き取りなどで把握するようにしている。	利用者は職員が忙しく立ち働くときも、自分が話があれば遠慮なく言ってきていて、そういった意味では職員が発掘しなくても自然に意向は入ってきています。ただじっくり話を聴けるのはマンツーマンになれる入浴時間として、そこは職員も意識しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーからの情報提供や、面会時、家族に聞いたりしながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設内での生活の中、見守り・観察をし、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に、ミーティングシート(課題ノート)を活用して、スタッフと話し合い、介護計画を作成している。	介護記録や本人からのヒアリング、家族意見を基に食事・水分の摂取量、排泄チェック表も反映させてカンファレンスをおこない、四半期1回の見直しを繰り返しての結果、入居時はできなかったことが今ではできるようになっている人もいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティング時に、スタッフ同士で情報を共有し、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況により、常に柔軟な対応が出来るよう心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに住んでおられるご友人やボランティアの方々を受け入れ、利用者様がこの地域で暮らしている事を実感できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診にあたっては、ご本人、ご家族の意向を優先しながら施設側もアドバイスをさせて頂き、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医はいますが、全員が在宅の頃からのかかりつけ医を継続し、かかりつけ医が事業所の協力医だったという人もいます。特段定期通院者はおらず、急変時には家族に連絡して受診には事業所も協力しますが大抵は薬の調合で済む範囲で、皆健康です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内には看護職がいないが、介護職が看護の眼を持って日常の変化に気付けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病状等の様子や経緯を細かく医療機関に報告している。退院時には退院カンファレンスに積極的に参加し、退院後の対応が適切に行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設内での看取りが出来る事を、希望されるご家族に伝えている。医療連携ネットワークシステムを活用し、医療機関の情報がすぐに伝わる仕組みづくりを構築し、急変時の対応に努めている。	家族とは契約時におおよそ合意できていても、本人の状態変化に応じて都度話し合っています。森町は医療連携が整っているためか家族が看取りを希望するケースが少ないものの、事業所側では「希望があって医療行為が必要なければ看取りをおこなう」としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを整備している。職員は救命救急講習に順番に参加させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月と9月の1年に2回、防災訓練を実施している。(夜間想定も実施)	例年「年2回夜間、昼想定」と決めています。本年は総合避難訓練を実施する予定です。訓練では消防署職員の立ち合いもあり、AEDの操作についても別途研修への参加を予定しています。「有事には協力する」と行政に申し出てはいますが、備蓄は3日分です。	風水害の対策、地域との相互扶助、連携など幾つかある課題が善処されることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重して目線を合わせた言葉掛けをすることを心がけて対応している。	失禁が恥ずかしいという気持ち強い利用者には、不在の居室に入らせてもらい汚れ物をそっと取り出す、といった配慮をおこなっています。「ゆっくりゆったり」ペースの流れができていて、利用者の考えもゆっくり聞いている、と管理者は捉えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事を行う時は、本人の意見や意思を尊重して、無理強いはない様に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	必ず本人の気持ちを確認し体調にも配慮して、レクなどは必ず声をかけて参加を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が決めることができる方は本人に決めて頂いている。出来ない方は体調や気候や季節に合わせて着る服を選んで、身だしなみを整える支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、食器を拭いたり、おかずの盛り付けなどもして頂いている。塩分制限のある方の食事を作る際は、食事が物足りなく感じない様、味付けに気を付けながら行っている。	食材は業者から届き、調理と清掃専任職員が週4日配置された環境で食事が提供されています。家事リハビリについては「手伝ってくださる方いますか～」と声をかけますが、「お願いします」「やってください」といった依頼まではせず、本人本位にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が摂れてない利用者様には、カロリーが高い食事を提供している。水分量は利用者様の好みや習慣に合わせて飲み物を変えて提供することで不足しないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の計4回口腔ケアを行っている。ご本人にまず磨いてもらうが、状況によって職員が手伝うようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートを時間別(排泄の有無、失禁等の有無)に記入し、一人ひとりのパターンを把握し声掛け又はトイレ誘導を行っている。	排泄パターンチェック表を活用したり、定時での誘導をおこなう人もいますが、自立している人が多く大抵は見守りとなっています。オムツを使用する人が夜間のみパットをあてていますが、他は布パンツで過ごさせています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の食事量、水分量をチェックしている。便秘気味の方は朝ヨーグルトを食べ、便秘がひどい方は漢方のお茶を飲用している。医師に処方を受けて便秘薬を服用している方もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回は入浴されている。希望があれば他の日でも入浴して頂いている。希望に応じて足浴やシャワー浴も行っている。	3日に1度の頻度でも「嫌だ」という人もいて、清潔を保つためにも職員があれやこれや会話をする中でいつの間にか湯に浸かる、ということが慣習となった人もいます。また縦横に備わる手すりにつかまりながら着替えたり、立ち上がる行為は足腰のリハビリにも叶っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や入浴後、自由に過ごされ休息して頂いている。夜間も利用者様の意志で過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の在庫管理と、現在飲んでいる薬を一覧表にしており、利用者様の状況に合わせて服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前と午後1時間程みんなでゲームをしたり散歩をしたりしている。興味のない方には個別で興味のある事をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候の良い日には毎日散歩を行っている。(真夏及び真冬は除く)他にも計画を立て、ドライブや買い物に出かけている。	朝夕の散歩のほか、コスモス畑、菜の花畑、百合園や桜など花々を巡るミニドライブも季節で愉しめています。回転寿司やファミレスでの外食レクや、アクティ森でアイスをはおぼったり、おにぎりを作ってピクニックする日もあります。	回数としては多いものの、思いつきで出ているケースばかりのため、できれば年1、2回は予め決めた外出行事を用意し、さらには家族も誘えると、なお良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が立て替え、後日ご家族に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応している。月1回ご家族への近況報告として職員が手紙と写真を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、消毒は毎日行っている。室温もその日の気候に合わせて対応している。フロアの大きな壁に壁画を作って貼ってある。	「自由に過ごす」ことをテーマとする事業所ですが、利用者は明るく光が差し込むリビングに集まっていて、特に窓側に置かれたソファでは居心地がよいのか、皆穏やかな表情が印象的です。至る処に吊るし雛、絵手紙、折り紙、書道が飾られ、楽しい時間が豊富なことが伝わります。	経年劣化で傷む箇所もあり、一度壁紙をはじめとするインテリアの見直しをすることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのスペースの中でソファを用意し、座位が難しい方用にはリクライニングチェアを用意し、くつろげる空間を提供している。テレビも見やすい位置に設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自由に使って頂いている。思い出の写真やレクの時に作った物や作品を飾り、いつでも見られるようにしている。	カーテン、エアコン、クローゼット、電気のほか2段の棚があり、机代わりに読書や書き物をしたりしているのだろうと推量される部屋があれば、ある利用者はテレビを置いてリビングボードとして使用していて、その人らしくアレンジしていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、居室内、廊下等に手すりがついている。トイレの場所がわかるようにトイレの前には大きな張り紙をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296300011		
法人名	株式会社 ブレインシステム		
事業所名	グループホーム 虹の森 (2階ユニット)		
所在地	周智郡森町森1588-5		
自己評価作成日	平成29年8月10日	評価結果市町村受理日	平成29年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中で、安全・安心に過ごして頂き、入居者様が出来る事を実践して頂き、達成感も味わって頂いている。たとえば、食事作りや洗濯物たため、掃除、壁画作り等行っている。食事、散歩、ドライブ等イベント等の計画を立て、季節を感じて頂いている。地域との交流は随時行っているが、保育園の慰問や中学生の福祉体験、高校生の実習を定期的に受け入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「訪れた人がまた来たい」と思う場所づくりを、との姿勢を開所当初から持ち続け、今でも継続できていることが自慢の事業所です。此処2年は庭の整備に力を入れ、草を刈り、石を除き、季節を感じる花や野菜を増やしており、清掃は全員協議で当番を決め「だれが」「どこを」が徹底され、内外ともに環境を整えています。散歩など戸外に出た際、以前の利用者家族から親しく声をかけてもらえるのはその成果だと、管理者は感じています。また現状に甘んじることなく、例えば水分チェック表を作り、コップを大きいものに変えて水分量を増やす取組みも定着し、外出行事には「できるだけ全員で」を実践できる底力をも持ち合わせています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの事務所と玄関前に掲示している。新入社員には、理念を書いた用紙をカードに入れ渡している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内の行事のチラシを、地域の方々に配っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園の慰問、中学生の福祉体験、高校生の実習を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域の方々に出席して頂き、社員・入居者・介護サービス等の実情を伝えている。質疑応答の時間を設け、お茶をしながら話し合う時間も保たれている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に数回、必要に応じて市町村担当者に実情をお伝えし、運営推進会議にも出席している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	報道等で話題になった時は、スタッフ間及び運営推進会議等で話し合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様が理解、納得されるよう時間を設けている。改定等の際は予め文書でお伝えし、場合によっては、より詳細に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議等でも出された意見を話し合っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議等で意見が出た時は随時行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の全体会議・施設会議等で把握に努めている。必要に応じて面接を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員の研修は、年間計画を立て施設内研修を実施している。施設外研修は、社員船員を対象とし、随時参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、講演等にも参加し、交流を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を共有し実践出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などに、最近の様子をお伝えする時間を設け、何か要望はないか傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が1番目に何を望んでいるか見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に散歩、談話、レク、食事等に寄り添えるよう、家族のような関係づくりに出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等の来設時、時間を共に共有できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の面会や馴染の所へドライブ時行くようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人でも多くの人に参加できるレクの計画を立てている。介護士が間に入り、談話が出来る時間を設けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町内での買い物等で出会った時に挨拶する程度ですが、中には近況を離されるケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々話しを多くする事に努め、何を望んでいるかを見つけ出すように心掛けている。話しをすることが苦手な入居者様には、周囲からの聞き取りなどで把握するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーからの情報提供や、面会時、家族に聞いたりしながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設内での生活の中、見守り・観察をし、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に、ミーティングシート(課題ノート)を活用して、スタッフと話し合い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティング時に、スタッフ同士で情報を共有し、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況により、常に柔軟な対応が出来るよう心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の知人や地元のボランティアの方々を受け入れ、利用者様がこの地域で暮らしている事を実感できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向を優先しながら、必要に応じて施設側もアドバイスをさせて頂き、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化に気付くように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病状の様子や経緯を細かく医療機関に報告している。退院時は退院カンファレンスに参加し、適切に対応出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	条件が揃えば施設内で看取りが出来る事を入院時等に説明している。在宅医療連携ネットワークシステムを活用し、医療機関の情報が伝わる仕組みを構築し、急変時の対応に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応している。AEDの講習参加も位置づけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練等を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重して、目線を合わせた言葉掛けをすることに心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事を行う時は、本人の意見や意思を尊重して、無理強いはないように行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	必ず本人の気持ちを確認し、体調にも配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が決められる人は決めて頂く。決められない人は、体調や気候等に配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お楽しみ献立(食べたいもの)を聞き取り、スタッフと一緒にいる。下準備や後片付けも積極的に行ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は、好みや習慣を把握し飲み物を色々変えて提供し、不足しないよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後口腔ケアを行っている。必要に応じてスタッフがやっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートを時間別に(排泄の有無や失禁の有無等を)記入し、一人ひとりのパターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の食事量や水分量をチェックしている。漢方のお茶や処方薬を頂いている人もいる。随時腹部マッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回~3回入浴されている。要望があればその他の日でも入ってもらっている。入浴時間は必要に応じて変更を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に過ごされ休息して頂いている。夜間も利用者の意志で過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理と現在飲んでいる薬を一覧表にしている。利用者様の状況に合わせて服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前と午後の1時間程、みんなでゲームや散歩したりしている。興味のない方には個別で興味のある事をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には毎日散歩を行っている。(真夏及び真冬は除く)他には計画を立ててドライブや買い物に出かけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が一時立て替え、後日ご家族様へ請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応している。月1回ご家族様に対し近況報告として職員が手紙と写真を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・掃除、消毒は毎日行っている。室温もその日の気候に合わせて対応している。 ・フロアの大きな壁に壁画を作り貼っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのスペースにソファを用意し、座位が難しい方にはリクライニングチェアを用意し、くつろげる空間を提供している。テレビもどこからでも見やすい位置に設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自由に使って頂いている。思い出の写真やレクの時に作った物や作品を飾り、いつでも見られるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、居室内、廊下等手すりがついている。トイレの場所がわかりやすいように、トイレの前に大きな張り紙をしている。		